OLYMPUS
Your Vision, Our Future

2013年3月期 連結決算概況

オリンパス株式会社
取締役専務執行役員　グループ経営統括室長
竹内　康雄

2013年5月15日

●財務担当の竹内です。

●それでは私から、2013年3月期 連結決算、ならびに2014年3月期通期見通しの概況をご説明申し上げます。

2013年3月期実績 ①連結業績概況

✓ 医療事業が好調に推移。4Q（1-3月期）では各利益項目で増益を達成
✓非事業ドメイン・固定資産の売却を進めた影響もあり、通期の純利益は前期比570億円改善

（単位：億円）	2012年3月期 通期	2013年3月期 通期	増減額	前年 同期比	特殊要因 調整後(*)	2012年3月期 4Q（1-3月）	2013年3月期 4Q（1-3月）	前年 同期比
売上高	8,485	7,439	△1,047	△12%	+0%	2,239	1,826	△18%
販管費	3,483	3,431	△52	△2%	-	907	928	+2%
（販管費率）	(41.0)	(46.1%)	(+5.1pt)			(40.5%)	(50.9%)	(+10.4pt)
営業利益	355	351	△4	△1%	+5%	96	105	+10%
（営業利益率）	(4.2%)	(4.7%)	(+0.5pt)			(4.3%)	(5.7%)	(+1.4pt)
経常利益	179	130	△48	△27%	-	29	43	+51%
（経常利益率）	(2.1%)	(1.8%)	(△0.3pt)			(1.3%)	(2.4%)	(+1.1pt)
当期純損益	△490	80	+570	-	-	△159	4	-
（純利益率）	(-)	(1.1%)	(-)			(-)	(0.2%)	

＜為替レート・影響額＞

円/US$	79円	83円	4円（円安）
円/Euro	109円	107円	△2円（円高）
売上高への影響額	-	128億円	
営業利益への影響額	-	2億円	

（＊）「為替」「情報通信事業譲渡」の影響を除いた前年同期比

Copyright Olympus Corporation

- まず2013年3月期の連結業績です。
- 売上高は、前期比12％減の7，439億円、営業利益は横ばいの351億円となりました。この数値には、情報通信事業を9月に譲渡したことが、売上高に対し1，202億円、営業利益に25億円、それぞれマイナスに影響しています。
- 為替については、ドルは前期比で約4円の円安、ユーロは約2円の円高となり、売上高に対して128億円の増収、営業利益に対して2億円の増益要因となっております。これらの影響を除いた実質ベースでは、売上高でほぼ横ばい、営業利益は5％の増益となります。
- 営業利益以下については、映像事業の減損損失や構造改革に伴う事業再構築損など、合計164億円を特別損失に計上した一方で、情報通信事業など非事業ドメインの整理・売却を進めたこと等により、合計225億円を特別利益に計上しました。これを受け、当期の純利益は80億円の黒字となりました。前期は繰延税金資産の取り崩しなどがあったこともあり、約570億円の大幅改善となります。
- また、1-3月の3ヶ月の利益面をみると、営業利益は前年同期比10％増、経常利益は51％増、純利益は163億円の改善となり、各利益ともに年度後半にかけ、さらに増益傾向が鮮明となっています。
- なお、当期は最終利益を確保しましたが、配当につきましては、財務基盤強化の観点から、誠に遺憾ですが見送りとさせていただきました。

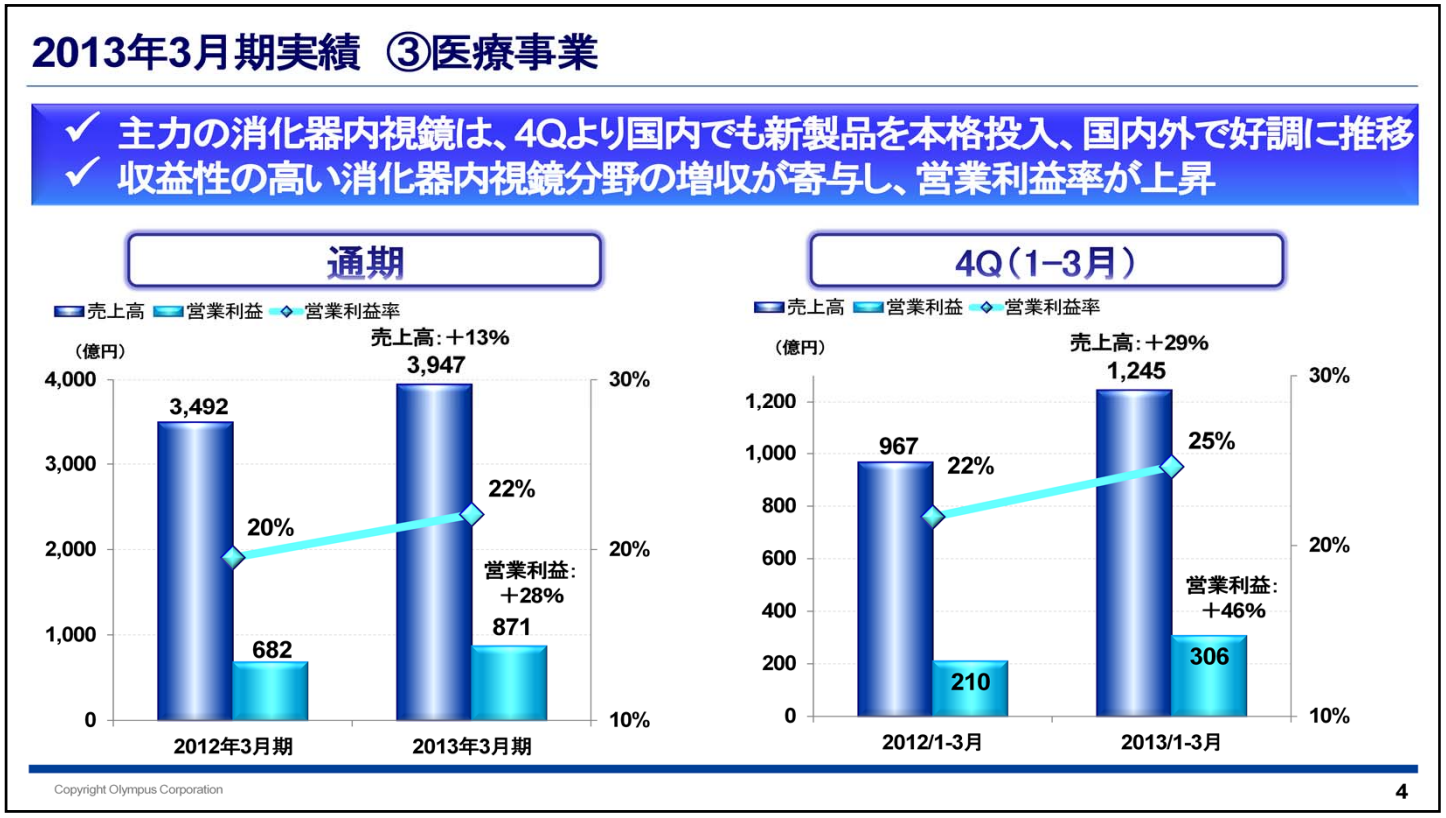
2013年3月期実績 ②セグメント別業績

✓ 医療事業は通期、4Q（1-3月期）共に前期比で大幅な増収増益

		2012年3月期		2013年3月期		前年同期比	
		通期	4Q（1-3月）	通期	4Q（1-3月）	前期比	前4Q比
医療	売上	3,492	967	3,947	1,245	＋13%	＋29%
	営業利益	682	210	871	306	＋28%	＋46%
ライフ・産業	売上	924	265	855	280	△7%	＋ 6%
	営業利益	54	19	35	23	△35%	＋22%
映像	売上	1,286	238	1,076	208	△ 16%	△ 13%
	営業損失	△ 108	△70	△ 231	△143	-	-
情報通信	売上	2,294	654	1,142	-	△50%	-
	営業利益	53	17	17	-	△68%	-
その他	売上	489	115	417	94	△ 15%	△19%
	営業利益	△ 80	△ 28	△ 49	△ 16	-	-
全社・消去	売上	-	-	-	-	-	-
	営業利益	△ 246	△ 53	△ 293	△ 66	-	-
連結合計	売上	8,485	2,239	7,439	1,826	△ 12%	△ 18%
	営業利益	355	96	351	105	△1%	＋10%

Copyright Olympus Corporation

- セグメント別の状況です。
- 医療事業が大変好調に推移し、会社全体の業績に大きく貢献しています。
通期では前期比13％の増収、28％の増益、1-3月の3ヶ月では、前年同期比29％の増収、46％の増益と、年度後半にかけさらに好調な業績を計上しています。
- ライフ・産業事業も、通期では減収減益となりましたが、1-3月の3ヶ月でみると、景気の回復基調を背景に、前年同期比6％の増収、22％の増益と、回復傾向がみられます。
- 映像事業は、コンパクトカメラの急激な市場縮小の影響により、前期に引き続き大幅な営業損失を計上する結果となりました。
- 主力の3事業について、もう少し詳しくご説明します。



- まず、医療事業です。

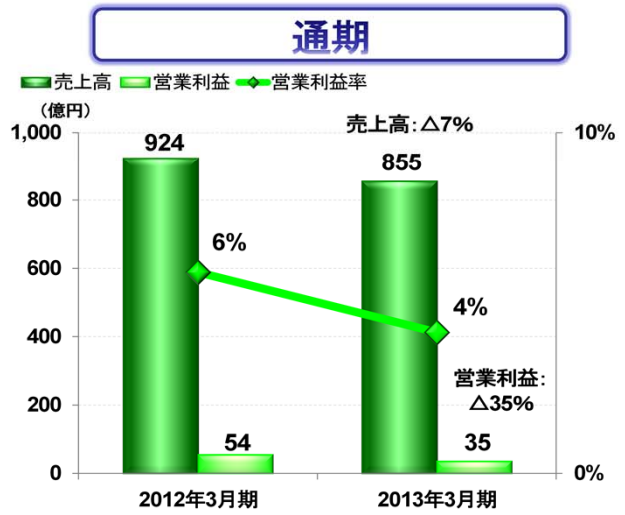
- 主力の消化器内視鏡分野では、欧米で昨年投入した新製品のエクセラ・スリーが、引き続き収益に大きく貢献したことに加えて、国内においても、この1-3月期に本格投入した新製品のルセラ・エリートが販売を大きく伸ばしました。
- 外科分野も同様に、国内外で投入した外科手術用内視鏡のヴィセラ・エリートが収益に大きく寄与しました。

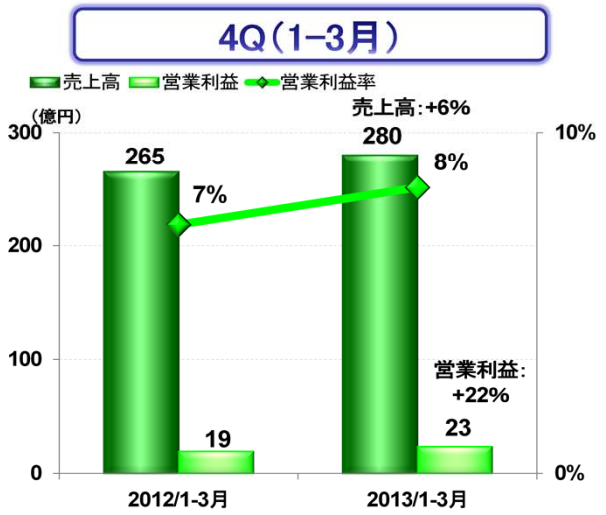
- これらの結果、通期では、売上高は前期比13％増の3，947億円、営業利益は28％増の871億円となりました。また、1-3月の3ヶ月でみますと、売上高は前年同期比29％増収の1,245億円、営業利益は46％増益の306億円となりました。営業利益としては初めて四半期ベースで300億円を超える数値を計上致しました。

- また、営業利益率ですが、収益性の高い消化器内視鏡分野の売上拡大が寄与し、通期で2ポイント改善の22％、1-3月期では3ポイント改善の25％となりました。

2013年3月期実績 ④ライフ・産業事業

✓民間設備投資抑制や政府予算執行の遅れにより通期で減収減益となるも、4Qでは景気の回復基調等を背景に増収増益を確保
✓主力モデルの新製品投入や生産拠点の合理化等、来期以降への布石も実施





Copyright Olympus Corporation

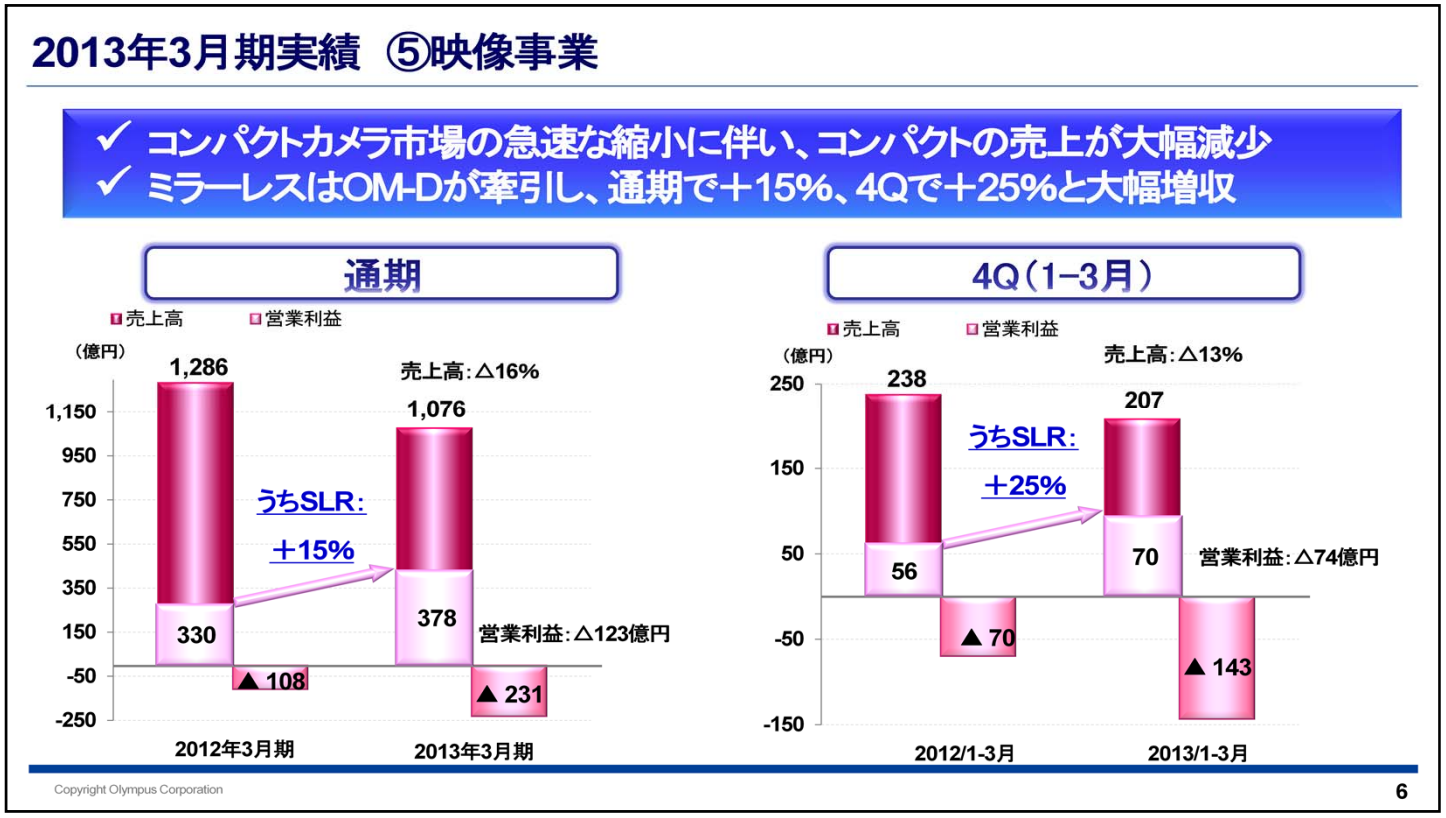
- ライフ・産業事業です。

- 民間企業の設備投資意欲が冷え込んだことや、政府予算執行遅れ等により、通期で、売上高は、前期比7％減の855億円、営業利益は35％減の35億円となりました。

- 当期は、フィリピン工場の閉鎖や長野地域の製造拠点統合など、製造拠点の合理化、事業効率の向上等を確実に進めてまいりましたが、マクロ環境の悪化による売上高の減少をカバーすることが出来ませんでした。

- しかし、1−3月の3ヶ月では、景気の回復基調や円安等を背景に、前年同期比6％の増収、22％の増益となり、回復基調が鮮明となっています。

- ライフ分野・産業分野ともに、今後の収益ドライバーとなる新製品を2013年3月期に投入しておりますので、これら主力の新製品を中心に、回復基調にある設備投資等による需要改善を取り込み、今後、本格的な収益回復を図りたいと思います。

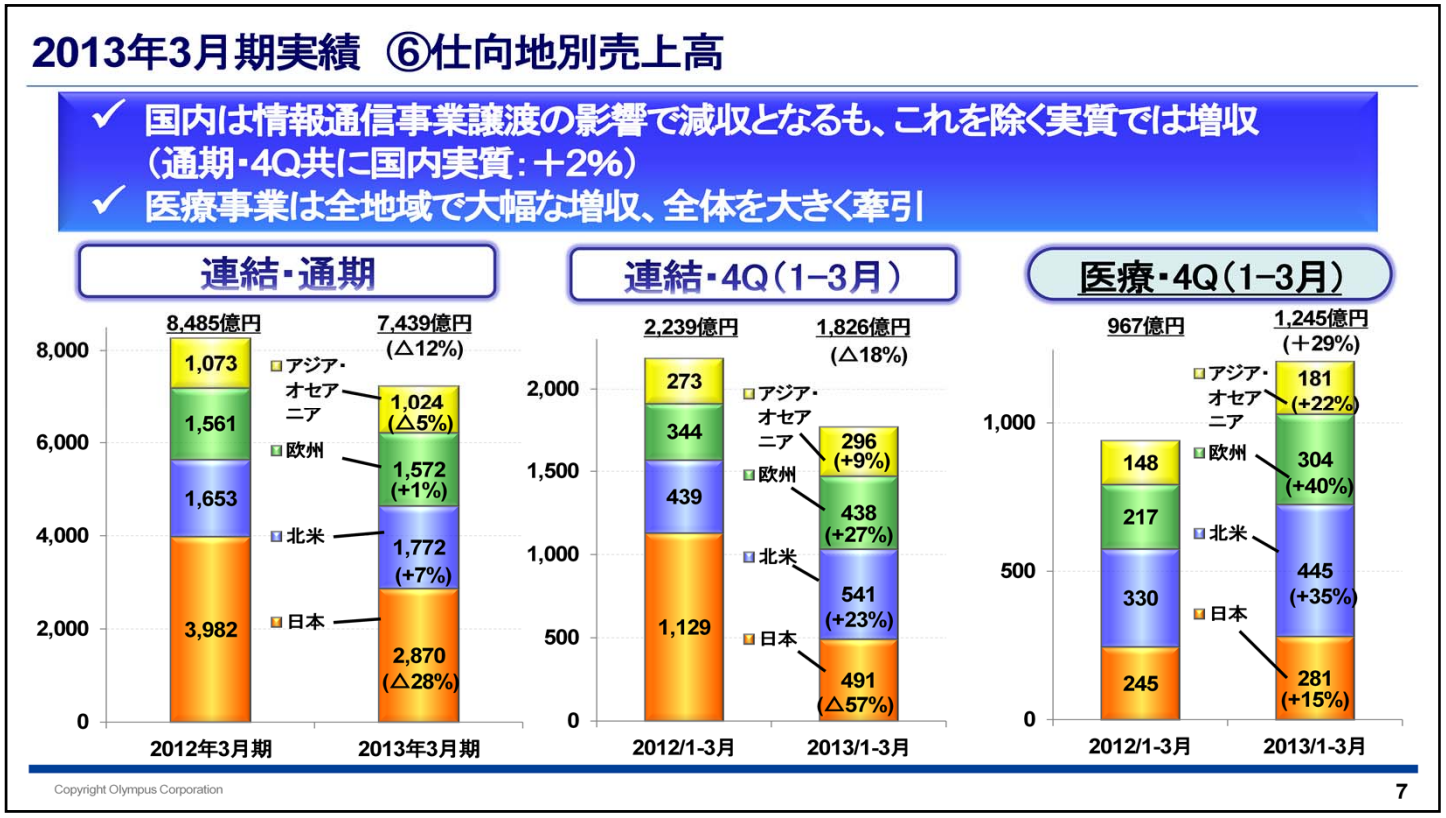


- 映像事業です。

- コンパクトカメラ市場の急激な縮小を受け、売上高は前期比16％減の1，076億円、営業損失は約230億円という、結果となりました。

- 当社が注力しているミラーレスは、一眼レフと同等の機能を誇るOM-Dが好調な実績となり、国内を中心に売上増に寄与しました。ミラーレスの通期売上高は、前期比15％増の378億円、1-3月期では25％増の70億円となりました。
- 調査会社のデータでは、国内ミラーレス市場における2013年3月期の当社シェアは3割を超え、引き続きトップシェアを維持しています。

- なお、通期のデジタルカメラの出荷台数は、コンパクトが510万台、ミラーレスが59万台となりました。デジタルカメラ全体では、前年比約3割減の569万台という結果でした。



- 地域別の売上高はこちらの通りです。

- 国内は、通期、1-3月期ともに減収となっておりますが、これは情報通信事業譲渡の影響であり、これを除くと実質的には、いずれも増収です。

- 欧米は、通期、1-3月期、いずれも増収となりました。特に1-3月期は増収傾向の拡大が顕著になっています。

- 右側の棒グラフは医療事業の1-3月期の実績ですが、全地域で大幅増収となり、全社のドライバーとなっています。第3四半期は、減収となったアジアについても、中国での需要が回復しており2ケタの増収傾向に転じています。

貸借対照表（2013年3月末）

✓ 自己資本比率が前期末より11ポイント改善、15%台まで回復

（単位：億円）	2012年3月末	2013年3月末	増減		2012年3月末	2013年3月末	増減
流動資産 （デジカメ在庫）	5,266 (236)	5,410 (236)	+ 145 (-)	流動負債	3,204	3,169	△35
有形固定資産	1,278	1,298	+20	固定負債 （内：社債・長期借入金）	5,981 (5,303)	4,908 (4,229)	△1,073 (△1,074)
無形固定資産	1,971	1,746	△225	純資産	480	1,524	+1,044
投資その他資産	1,150	1,146	△4	（自己資本比率）	(4.6%)	(15.5%)	(+10.9pt)
資産合計	9,665	9,601	△64	負債 純資産 合計	9,665	9,601	△64

有利子負債：　5,604億円（2012年3月末比　△820億円）
純有利子負債：3,308億円（2012年3月末比　△1,116億円）

Copyright Olympus Corporation

- バランスシートの状況です。

- 有利子負債を820億円圧縮しました。また、年末からの円安加速により為替換算調整勘定が前期末比で約440億円改善したことや、ソニーによる500億円の増資払い込み等により、自己資本比率は15%台まで回復しました。前期末比では、約11ポイントの大幅な改善です。引き続き確実に利益を積み上げ、更なる改善を図りたいと考えています。

- なお、デジタルカメラの在庫は、前期末と同水準の236億円でした。今後も在庫のコントロールを行い、着実に水準を引き下げていきます。

キャッシュフローの状況（2012年4月～2013年3月）

✓ フリーキャッシュフローは前期のマイナスから、587億円のプラスに転換

（単位：億円）	2012年3月期	2013年3月期	増減
売上高	8,485	7,439	△1,047
営業利益	355	351	△4
（%）	4.2%	4.7%	＋0.5pt
営業CF	309	252	△57
投資CF	△357	335	＋692
財務CF	△58	△424	△367
キャッシュフロー	△106	163	＋269
フリーキャッシュフロー	△48	587	＋635
現金及び現金同等物期末残高	1,987	2,258	＋271
減価償却費	338	339	＋1
のれん償却額	123	97	△26
設備投資額	352	280	△73

Copyright Olympus Corporation

- キャッシュフローの状況について、ご説明します。

- 営業キャッシュフローは、法人税等の支払額205億円や、利息の支払額139億円、売上債権の増加101億円等によるマイナス要因がありましたが、税前利益で191億円を確保したことに加えて、減価償却費339億円、のれん償却額97億円等の非資金項目もあり、252億円のプラスを確保することができました。

- 投資キャッシュフローは、設備投資関連の支出が280億円ありましたが、情報通信事業の売却など子会社株式の売却で526億円の収入があったことなどから、335億円のプラスとなりました。

- 以上により、フリーキャッシュフローは587億円のプラスとなりました。

通期見通し

Copyright Olympus Corporation

- 続いて、2014年3月期の見通しについてご説明いたします。

2014年3月期 連結業績見通し

✓ 営業利益以下の全利益項目で大幅な増益見通し

（単位：億円）	2013年3月期（実績）	2014年3月期（見通し）	前期比（増減額）	前期比（%）
売上高	7,439	7,000	△439	△6%
営業利益 （営業利益率）	351 (4.7%)	710 (10.1%)	＋359	＋102%
経常利益 （経常利益率）	130 (1.8%)	480 (6.9%)	＋350	＋268%
当期純利益 （当期純利益率）	80 (1.1%)	300 (4.3%)	＋220	＋274%
＜為替レート・影響額＞				
円/US$	83円	90円	＋7円（円安）	
円/Euro	107円	120円	＋13円（円安）	
売上高への影響額	-	＋381億円		
営業利益への影響額	-	＋99億円		

Copyright Olympus Corporation

- 情報通信事業譲渡の影響により、売上高は減収となる見込みですが、利益面では、営業利益以下の全項目について、大幅な増益となる見通しです。
- 売上高は、情報通信事業譲渡による1，142億円のマイナス影響を主因として、前期比6％減の7，000億円の見通し。
- 一方、営業利益は、主要3事業全てで利益改善を図り、前期比約2倍の710億円、経常利益は前期比350億円増の480億円、当期純利益も前期比220億円増の300億円と、いずれも大幅な増益を見込んでいます。
- 円安効果に加えて、映像事業の利益改善および、医療事業が引き続き大変好調に推移することにより、達成できる見通しです。
- 尚、為替レートについては、ドル円は90円、ユーロ円は120円を想定しています。

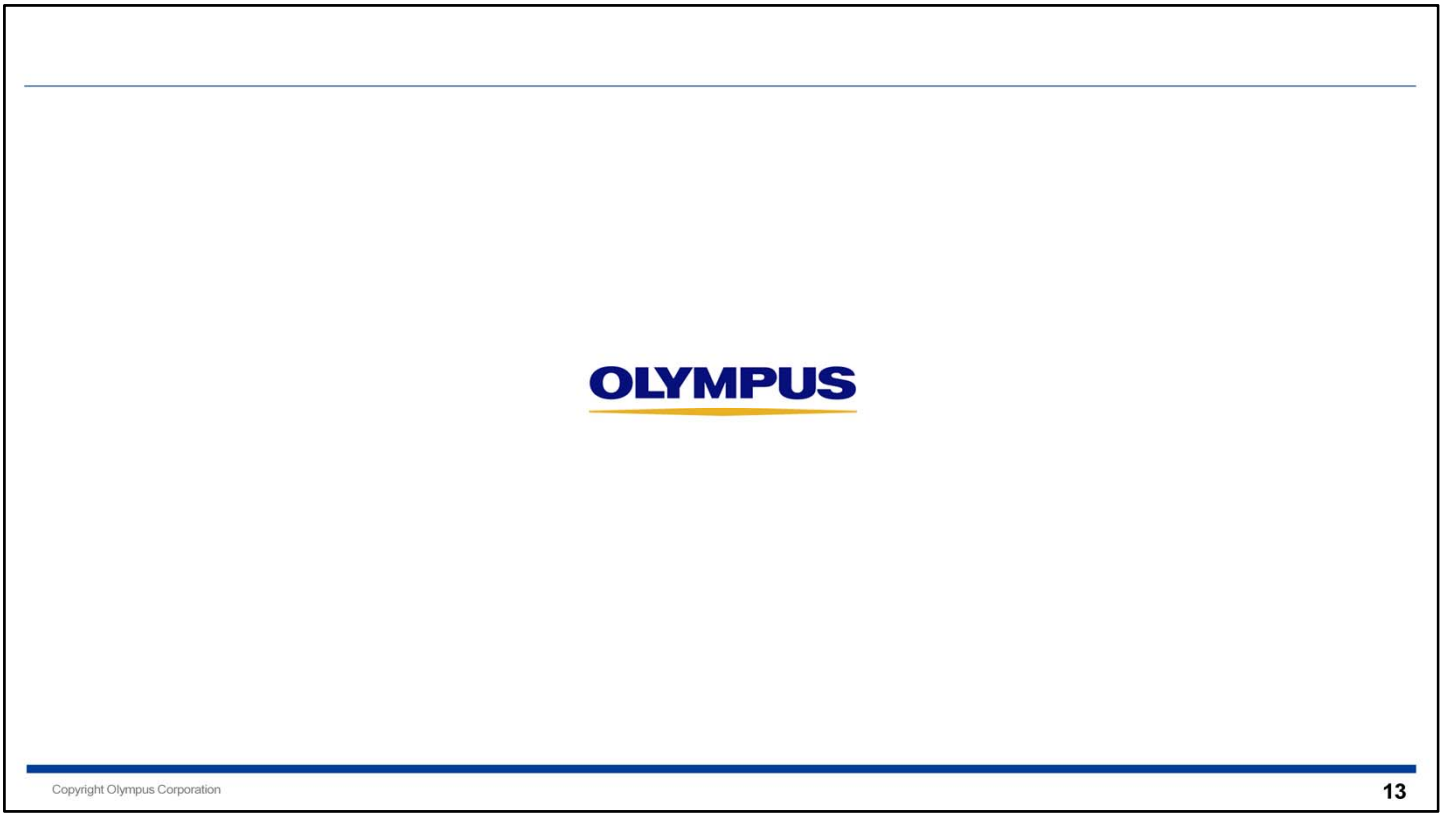
2014年3月期 セグメント別業績見通し

✓ 医療事業の営業利益は初めて1,000億円を突破する見通し

（単位：億円）		2013年3月期（実績）	2014年3月期（見通し）	前期比（増減額）	前期比（%）
医療	売上	3,947	4,700	+753	+19%
	営業利益	871	1,010	+139	+16%
ライフ・産業	売上	855	1,000	+145	+17%
	営業利益	35	70	+35	+99%
映像	売上	1,076	1,040	△36	△3%
	営業利益	△231	0	+231	-
情報通信	売上	1,142	-	△1,142	-
	営業利益	17	-	△17	-
その他	売上	417	260	△157	△38%
	営業利益	△49	△50	△1	-
全社・消去	売上	-	-	-	-
	営業利益	△293	△320	△27	-
連結合計	売上	7,439	7,000	△439	△6%
	営業利益	351	710	+359	+102%

Copyright Olympus Corporation

- セグメント別の見通しはこちらの通りです。
- 医療事業では、昨年投入した主力の消化器内視鏡および外科内視鏡の新製品が、引き続きグローバルに販売拡大に寄与する見込みであり、売上高、営業利益ともに大きく成長する見通しです。売上高は、前期比19％増の4，700億円、営業利益は16％増の1，010億円となり、営業利益で初めて1，000億円の大台を突破する見通しです。
- ライフ・産業事業についても、昨年投入した新製品をドライバーとして、設備投資意欲の回復などマクロ環境の改善を追い風に、本格的な収益回復を織り込んでいます。売上高は、前期比17％増の1，000億円、営業利益は前期比倍増の70億円となる見込みです。今後も事業効率の向上をさらに進め、収益回復を図ってまいります。
- 映像事業につきましては、コンパクトカメラの事業リスク極小化を進めていく中で、売上高は前期比3％減の1，040億円となる見通しですが、映像事業の再建策として掲げた具体的施策と費用構造の改革により、営業利益は収支均衡を目指します。



- 最後に、2014年3月期の配当見通しですが、引き続き、財務基盤を強化していく必要があり、誠に遺憾ではありますが、見送りとさせていただく方針です。

- 今期の数値計画を達成し、着実に収益基盤を強化した上で、早期の復配、株主還元の充実を図り、株主の皆様の期待に応えたいと思います。

参考資料

Copyright Olympus Corporation

2014年3月期 連結業績見通し（上期／下期）

（単位：億円）	2013年3月期（実績） 上期	2013年3月期（実績） 下期	2014年3月期（見通し） 上期	2014年3月期（見通し） 下期	前年同期比（%） 上期	前年同期比（%） 下期
売上高	4,058	3,381	3,350	3,650	△17%	＋8%
営業利益 （営業利益率）	180 （4.4%）	170 (5.0%)	270 （8.1%）	440 (12.1%)	＋50%	＋158%
経常利益 （経常利益率）	74 （1.8%）	57 (1.7%)	175 （5.2%）	305 (8.4%)	＋137%	＋440%
当期純利益 （当期純利益率）	80 (2.0%)	0 (0.0%)	100 （3.0%）	200 (5.5%)	＋25%	-

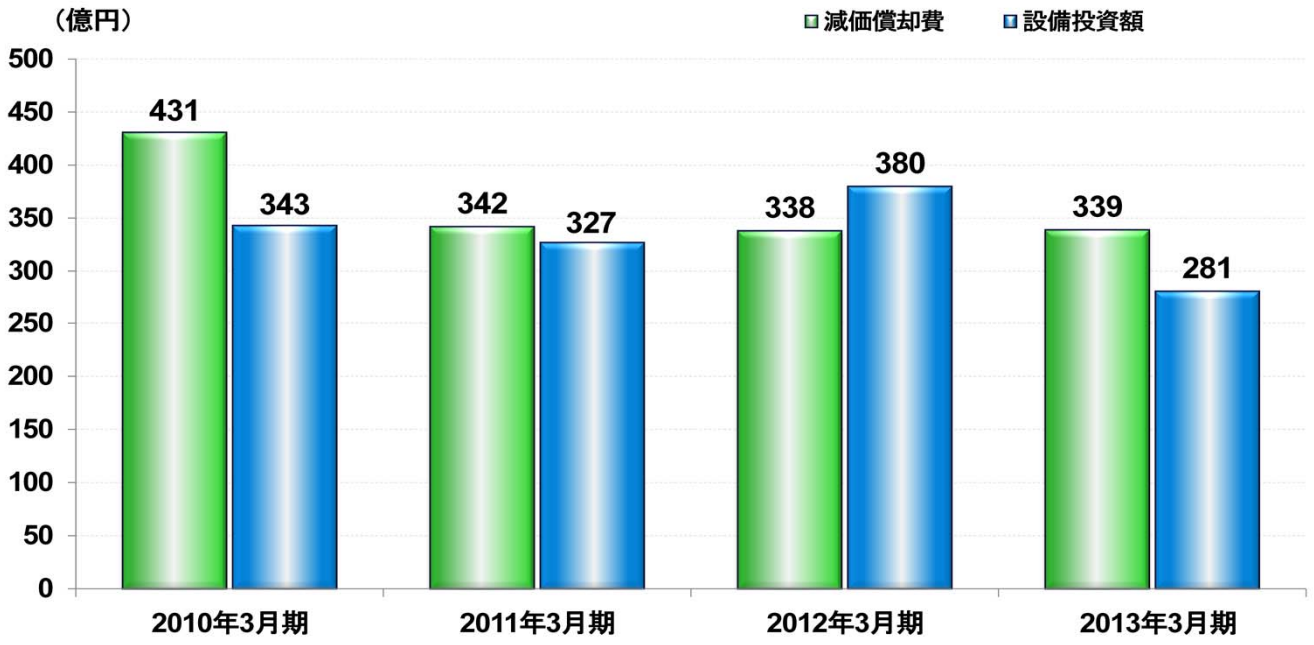
Copyright Olympus Corporation

2014年3月期 セグメント別業績見通し（上期／下期）

（単位：億円）		2013年3月期（実績） 上期	2013年3月期（実績） 下期	2014年3月期（見通し） 上期	2014年3月期（見通し） 下期	前年同期比（%） 上期	前年同期比（%） 下期
医療	売上	1,762	2,185	2,230	2,470	＋27%	＋13%
	営業利益	374	497	460	550	＋23%	＋11%
ライフ・産業	売上	381	474	460	540	＋21%	＋14%
	営業利益	11	24	15	55	＋38%	＋125%
映像	売上	559	517	530	510	△5%	△1%
	営業利益	△44	△186	0	0	-	-
情報通信	売上	1,142	-	-	-	-	-
	営業利益	17	-	-	-	-	-
その他	売上	213	205	130	130	△39%	△37%
	営業利益	△36	△13	△35	△15	-	-
全社・消去	売上	-	-	-	-	-	-
	営業利益	△141	△152	△170	△150	-	-
連結合計	売上	4,058	3,381	3,350	3,650	△17%	＋8%
	営業利益	180	170	270	440	＋50%	＋158%

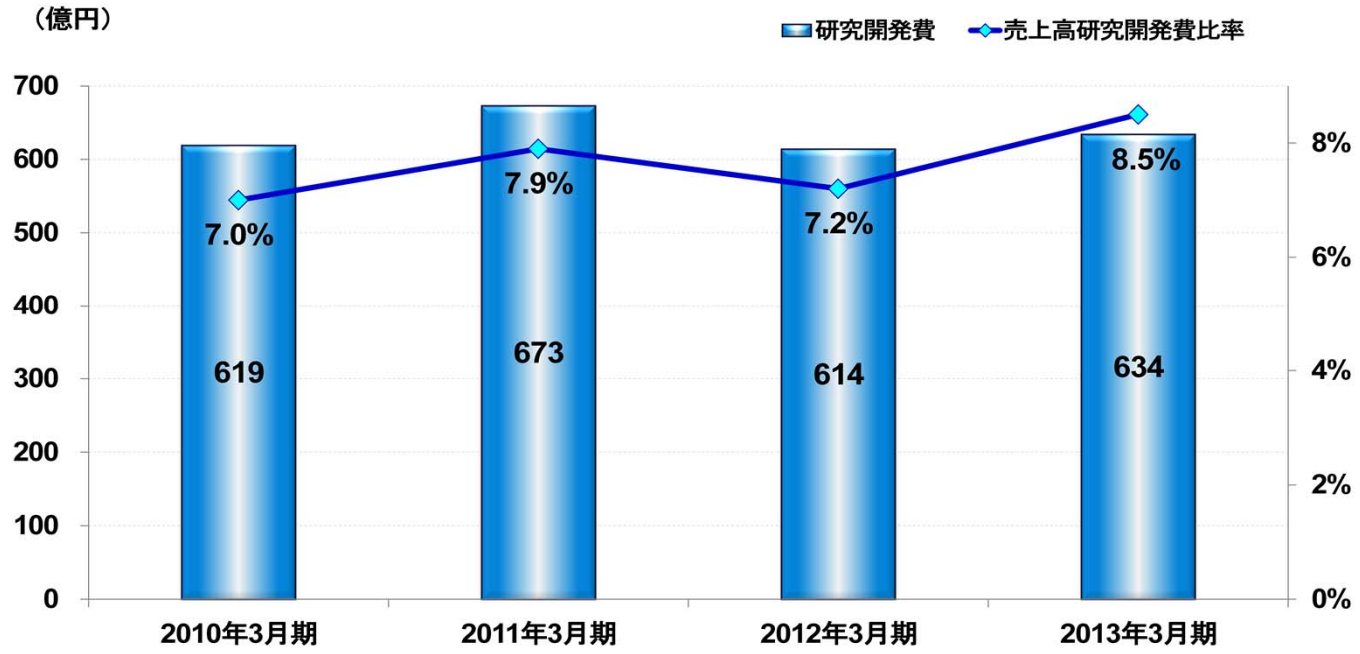
Copyright Olympus Corporation

設備投資・減価償却費



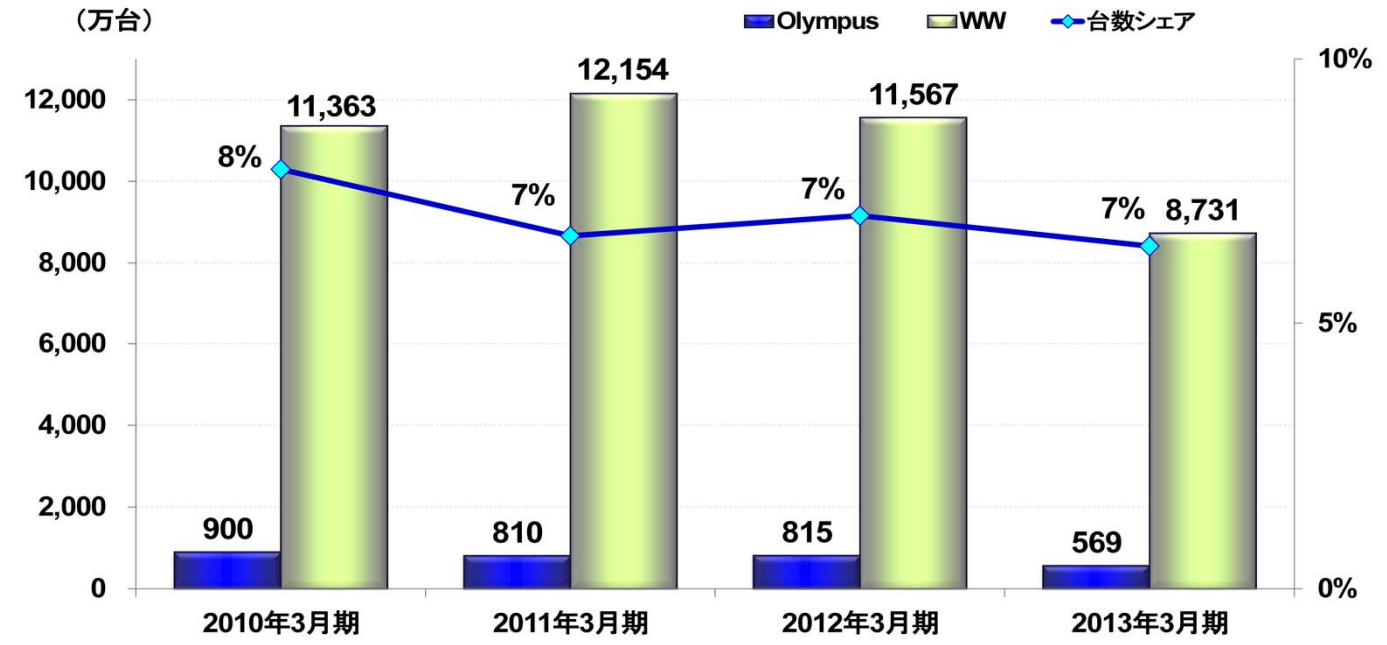
Copyright Olympus Corporation

研究開発費



Copyright Olympus Corporation

デジタルカメラ



Copyright Olympus Corporation

本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。

Copyright Olympus Corporation

Copyright Olympus Corporation